

「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	8 生涯現役で安心して暮らせる社会の構築	政策担当部局	保健福祉部, 企画部, 環境生活部, 経済商工観光部, 農林水産部, 教育庁
			評価担当部局	保健福祉部

**政策の状況**

**政策で取り組む内容**

生涯を安心して暮らすためには、生活を支えるための安定した経済基盤が必要である。このため就業意欲のある県民が一人でも多く就業できるよう富県宮城の実現により就業機会の確保に取り組む。

特に団塊の世代が高齢期を迎えるこれからは、意欲や能力のある高齢者が仕事や地域活動などに活躍する機会を創出していくことが必要であり、企業・NPO・市町村とも連携しながら、こうした人々の就業機会の確保や社会貢献活動等に参加するための環境づくりを進める。

また、障害者についても、障害による不便さを社会全体で補い、生活の場や自立した生活を送るための就労の場の確保などを進め、生きがいを持てる環境を整備する。

一方、生涯現役でいきいきと暮らしていくためには、若い時から健康に対する意識を高めることが重要であることから、県民の心と体の健康づくりを進める。併せて、介護が必要になっても地域で生活ができるように支援機能の充実を図る。

また、県内の各地域において、生涯を通じて必要な医療を受けることができる体制や、感染症の集団発生等に備えた健康危機管理体制、さらには体系的な救急医療体制を充実する必要がある。このため、医療機能の集約化、拠点化、地域間の役割分担等を進め、医師確保や医師の地域的偏在の解消等を図る。

県民一人ひとりが誇りを持ち、自分らしい生き方を実現するためには、すべての人の人権が尊重されることが基本であることから、権利擁護のための体制整備や県民の意識啓発等を進める。

また、生涯を通じて潤いのある生活を送れるよう、多様な学習機会や芸術文化・スポーツに親しめる環境整備を一層推進する。

**政策を構成する施策の状況**

施策番号	施策の名称	事業費 (決算(見込)額, 施策の事業費合計)	目標指標等の状況	現況値 (測定年度)		達成度	施策評価
18	多様な就業機会や就業環境の創出	182,869千円	新規高卒者の就職内定率	94.3%	(平成20年度)	C	やや遅れている
			ジョブカフェ利用者の就職者数	2,323人	(平成20年度)	A	
			障害者雇用率	1.58%	(平成20年度)	B	
19	安心できる地域医療の充実	246,083千円	医療法に基づく医師数の標準を充足している自治体病院(県立病院除く)の割合	56.7%	(平成19年度)	B	やや遅れている
			救急搬送時間	35.8分	(平成19年度)	C	
			がん患者の在宅看取り率	11.06%	(平成19年度)	A	
			病院及び介護サービス施設, 事業所に従事するリハビリテーション専門職(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)の数	1,100人	(平成19年度)	A	
			認定看護師数(皮膚・排泄ケア認定看護師数)	10人	(平成20年度)	B	
20	生涯を豊かに暮らすための健康づくり	340,492千円	肥満者の割合(30歳以上の男性)	-	(平成19年度)	N	やや遅れている
			肥満者の割合(40歳以上の女性)	-	(平成19年度)	N	
			がん検診受診率(胃がん)	-	(平成19年度)	N	
			がん検診受診率(肺がん)	-	(平成19年度)	N	
			がん検診受診率(大腸がん)	-	(平成19年度)	N	
			がん検診受診率(子宮がん)	-	(平成19年度)	N	
			がん検診受診率(乳がん)	-	(平成19年度)	N	
			3歳児の一人平均むし歯本数	1.63本	(平成19年度)	B	
21	高齢者が元気に安心して暮らせる環境づくり	127,571千円	認知症サポーター数	15,414人	(平成20年度)	A	概ね順調
			主任介護支援専門員数	241人	(平成20年度)	B	
			介護予防支援指導者数	18人	(平成20年度)	A	

22	障害があっても安心して生活できる地域社会の実現	254,068千円	「だれもが住みよい福祉のまちづくり条例」に基づく適合証の交付割合	8.7% (平成18～20年度)	C	概ね順調
			グループホーム利用者数	1,385人 (平成20年度)	B	
			受入条件が整えば退院可能な精神障害者数	1,414人 (平成19年度)	A	
			重症神経難病患者のうち、訪問看護サービスを利用している患者の割合	25.7% (平成19年度)	A	
23	生涯学習社会の確立とスポーツ・文化芸術の振興	267,876千円	公立図書館における県民一人当たりの図書資料貸出数	3.7冊 (平成19年度)	B	概ね順調
			総合型地域スポーツクラブの創設数	27クラブ (平成20年度)	B	
			みやぎ県民文化創造の祭典参加者数(うち出品者・出演者等の数)	1,036(23)人 (平成20年度)	A	

目標指標等の達成度 A:「目標値を達成している」  
 B:「目標値を達成していないが、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と同方向に推移している、又は現状維持している」  
 C:「目標値を達成しておらず、設定時の値から見て指標が目指す数値の変化と逆方向に推移している」  
 N:「現況値が把握できず、判定できない」

## 政策評価(総括)

政策の成果(進捗状況)	評価	評価の理由・各施策の成果の状況
各施策の成果等から見て、政策の進捗状況はどうなっているか。	やや遅れている	<p>・生涯現役で安心して暮らせる社会の構築に向けて、6つの施策で取り組んだ。</p> <p>・施策18では、事業の推進により一定の施策があったと認められるものの、世界金融不況が雇用環境の悪化に大きく影響しており、多様な就業機会や就業環境の創出はやや遅れている。</p> <p>・施策19では、事業の推進により一定の成果があったと認められるものの、県民の高い期待の中、目標指数等や県民満足度の向上にはつながっていない状況にあるため、安心して地域医療の充実はやや遅れている。</p> <p>・施策20では、事業の推進により一定の成果があったと認められるものの、県民意識調査では、全体として、取組みに対する重視度が高く、政策に対する期待も大きいことから、重要度と満足度との乖離度が小さくならない状況にあり、生涯を豊かに暮らすための健康づくりはやや遅れている。</p> <p>・施策21では、施策を構成する事業を確実に遂行し、期待される一定の成果を上げていることから、高齢者が元気で安心して暮らせる社会の構築は概ね順調に進捗している。</p> <p>・施策22では、施策を構成する事業について、それぞれ一定の成果が認められることから、障害があっても安心して生活できる地域社会の実現は概ね順調に進んでいると判断される。</p> <p>・施策23では、3つの目標指標等の実績は、目標を達成しているもの1つ、ほぼ目標値に近似しているもの2つとなってるほか、学習機会の確保などの事業に一定の成果が認められることから、生涯学習社会の確立とスポーツ・文化芸術の振興は概ね順調に進んでいると判断される。</p> <p>以上のことから、事業の推進により、それぞれ一定の成果が認められるものの、県民満足度の向上に反映されていないことなどから、生涯現役で安心して暮らせる社会の構築はやや遅れていると考えられる。</p>

## 政策を推進する上での課題等と対応方針 施策の必要性・有効性・効率性の観点からの課題等と次年度の対応方針

・施策18の多様な就業機会や就業環境の創出について、県民意識調査の優先すべき項目の結果を踏まえた高齢者や女性の就職支援に関する取り組みを進める。

・施策19の安心して地域医療の充実について、目標を達成していない3つの目標指標等の向上に向けて、関係機関・団体の理解・協力の下、一層効果的に事業を実施するとともに、特に指標が悪化している救急について新たな事業の実施などより強力な取り組みが必要である。

・施策20の生涯を豊かに暮らすための健康づくりについて、約半数近くの県民に認知されていないという県民意識調査の結果を踏まえて、県民一人ひとりが健康管理への自覚の向上を図るよう、関係機関が一体となって普及啓発に取り組む。

・施策21の高齢者が元気で安心して暮らせる社会の構築について、重視の割合に対し満足度の割合が低いという県民意識調査の結果を踏まえて、県民ニーズに的確に対応した地域づくりや基盤整備等に取り組む。

・施策22の障害があっても安心して生活できる地域社会の実現について、重視の割合が高いとなりながら、「わからない」と回答した割合も高いという県民意識調査の結果を踏まえて、各々の課題の解決のため、関係機関との連携、制度の周知及び普及啓発に取り組む。

・施策23の生涯学習社会の確立とスポーツ・文化芸術の振興について、満足度の割合が低く、「わからない」と回答した割合が高いという県民意識調査の結果を踏まえて、各分野における各年代のニーズの対応できるサービスを提供するため、一層の事業の推進及び周知に取り組む。